

2018年9月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月14日

上場会社名 株式会社ブランジスタ 上場取引所 東
 コード番号 6176 URL http://www.brangista.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 恵了
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 石原 卓 TEL 03-6415-1183
 定時株主総会開催予定日 2018年12月17日 配当支払開始予定日 -
 有価証券報告書提出予定日 2018年12月17日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2018年9月期の連結業績（2017年10月1日～2018年9月30日）

（1）連結経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年9月期	3,367	6.5	△233	-	△234	-	△519	-
2017年9月期	3,160	11.9	301	△40.0	302	△39.8	188	△46.4

（注）包括利益 2018年9月期 △519百万円（-%） 2017年9月期 131百万円（△60.6%）

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2018年9月期	△35.94	-	△19.6	△7.1	△6.9
2017年9月期	13.21	12.65	6.4	8.7	9.5

（参考）持分法投資損益 2018年9月期 -百万円 2017年9月期 -百万円

（注）当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2018年9月期	3,142	2,459	78.2	169.27
2017年9月期	3,454	2,831	81.9	198.10

（参考）自己資本 2018年9月期 2,458百万円 2017年9月期 2,830百万円

（3）連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2018年9月期	△290	△30	177	1,364
2017年9月期	24	△45	△306	1,476

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2017年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2018年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00	-	-	-
2019年9月期(予想)	-	-	-	-	-	-	-	-

（注）2019年9月期の配当予想につきましては、現在未定であります。

3. 2019年9月期の連結業績予想（2018年10月1日～2019年9月30日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,500	3.9	350	-	350	-	200	-	13.84

（注）第2四半期（累計）の業績予想は行っておりません。詳細は4ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年9月期	14,522,800株	2017年9月期	14,290,200株
② 期末自己株式数	2018年9月期	27株	2017年9月期	ー株
③ 期中平均株式数	2018年9月期	14,454,448株	2017年9月期	14,264,500株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
連結損益計算書	7
連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(当連結会計年度における重要な子会社の異動)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	11
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国の経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響や、相次いでいる自然災害による経済への影響に十分留意する必要があります。

当社グループを取り巻くインターネット関連市場では、4年連続で2桁成長を遂げているインターネット広告費が1兆5000億円台に乗り、日本の総広告費に対する構成比も年々高まっております(注1)。また、個人のインターネット利用機器においては、スマートフォン(59.7%)がパソコン(52.5%)を上回り(注2)、スマートフォン向けに各種サービスの提供を強化してきた当社にとって追い風となっております。

このような状況のもと、当社グループは「企業プロモーション支援を目的とした電子メディア事業」として、「電子雑誌」「ソリューション」と、当社連結子会社(株)ブランジスタゲームが運営する、3Dクレーンゲーム「神の手」の業容拡大に努めてまいりました。

電子雑誌業務においては、通販直結型の無料ファッションWEBマガジン、雑誌を読んでポイントが貯まる機能付きアプリ専用マガジンといった、企業から制作を受託して発行する電子雑誌を創刊したことに加え、創刊11年目を迎えている旅行電子雑誌「旅色」の別冊としてグルメ情報にフォーカスした電子雑誌「タバサキ」など6誌の新雑誌を創刊しタイトル数の増加を図るとともに、観光振興などを目的とした地方自治体とのタイアップによる電子雑誌の発行も4期連続で実現いたしました。

ソリューション業務においては、「ECサポートサービス」が好調に推移しており、特に2015年9月期にサービスの提供を開始した、ECサイト運営事業者向けの物流サービス「ブランジスタ物流」の取扱高が引き続き増加し、業務受託売上上の伸長を牽引いたしました。

また、2017年10月に台湾に設立した当社初の海外現地法人、博設技股份有限公司(Brangista Taiwan Inc.)では、積極的に現地での採用活動を行い、台湾に進出している日系企業や現地企業に対するEC事業への進出支援や「ECサポートサービス」の提供を進めてまいりました。

「神の手」においては、2018年8月24日付「通期連結業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、2018年7月21日以降、App Storeにおける新規ユーザーの受付及びアップデートが一時停止され、予定していた特別企画や海外事業展開が実施できず、投資回収及び収益化が困難な状況となりました。これに伴い、(株)ブランジスタゲームにおいて、特別損失として事業整理損127百万円を計上しております。また、当社の個別決算において、特別損失として関係会社事業整理損1,657百万円を計上しておりますが、連結決算上消去されております。

以上の結果、当連結会計年度におきましては、売上高3,367百万円(前連結会計年度比6.5%増)、営業損失233百万円(前連結会計年度は営業利益301百万円)、経常損失234百万円(前連結会計年度は経常利益302百万円)、親会社株主に帰属する当期純損失519百万円(前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純利益188百万円)となりました。

なお、当社グループは「企業プロモーション支援を目的とした電子メディア事業」の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(注1) (株)電通「2017年 日本の広告費」参考。

(注2) 総務省「平成29年通信利用動向調査の結果」参考。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の総資産は3,142百万円となり、前連結会計年度末に比べて312百万円の減少となりました。当連結会計年度における資産、負債及び純資産の状況は次のとおりです。

(流動資産)

流動資産は3,037百万円となり、前連結会計年度末に比べて274百万円の減少となりました。これは主に、連結子会社(株)ブランジスタゲームにおける広告宣伝費の支払いにより現金及び預金が112百万円減少したことや、(株)ブランジスタゲームにおける景品の評価損や廃棄損計上により貯蔵品が109百万円減少したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は104百万円となり、前連結会計年度末に比べて38百万円の減少となりました。これは主に、有形固定資産が増加したものの、博設技股份有限公司の設立に伴い設立準備金として計上した投資その他の資産が減少したことによるものであります。

(流動負債)

流動負債は682百万円となり、前連結会計年度末に比べて60百万円の増加となりました。これは主に、法人税等の支払いにより未払法人税等が37百万円減少したものの、「ブランジスタ物流」の決済代行業務の増加により預り金が103百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産合計は2,459百万円となり、前連結会計年度末に比べて372百万円の減少となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純損失の計上により利益剰余金が519百万円減少したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の期末残高は1,364百万円となり、前連結会計年度末に比べて112百万円の減少となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は290百万円(前年同期は24百万円の収入)となりました。これは主に、預り金の増加103百万円があったものの、税金等調整前当期純損失361百万円の計上や、法人税等の支払額216百万円による減少があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は30百万円(前年同期は45百万円の支出)となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出16百万円、有形固定資産の取得による支出11百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は177百万円(前年同期は306百万円の支出)となりました。これは主に、新株予約権の行使に伴う株式の発行による収入147百万円があったことによるものです。

(4) 今後の見通し

当社グループの売上高は、当社電子雑誌への広告掲載料と、電子雑誌の制作受託料、企業向けの販売促進支援を行うソリューション業務の受託料、当社連結子会社(株)ブランジスタゲームが運営する3Dクレーンゲーム「神の手」におけるゲーム利用料及び企業からの広告料によって構成されております。

電子雑誌業務については、営業人員の増加や制作体制を強化すると同時に、広告宣伝及びプロモーション活動を実施し、主力雑誌である「旅色」の媒体力を高めることで、広告掲載売上の増加を目指します。また、地方自治体や企業とのタイアップにより雑誌点数を増加させ、制作受託売上の増加を目指してまいります。

ソリューション業務については、EC市場の拡大を背景に、今後も「ECサポートサービス」の業務受託料の増加を目指してまいります。また、台湾の現地法人、博設技股份有限公司では、「ECサポートサービス」だけではなく、これまで当社グループで10年以上にわたって培ってきた豊富な経験・ノウハウのあるソリューション業務を、台湾に進出している日系企業や現地企業に提供し、引き続き拡大を目指してまいります。

「神の手」においては、「1. 経営成績等の概況(1) 当期の経営成績の概況」に記載した状況を踏まえ、2018年12月末日をもって有料モデルを休止し、アプリ内で動画をご覧いただくと無料でプレイできる広告モデルのみ提供を行っていく予定です。そのため、2019年9月期において収益化の目処は立っておりません。

それらの結果、次期(2019年9月期)の連結業績見通しにつきましては、売上高3,500百万円、営業利益350百万円、経常利益350百万円、親会社株主に帰属する当期純利益200百万円を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、会計基準につきましては、日本基準を適用しております。なお、IFRS(国際財務報告基準)の適用につきましては、国内外の情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,476,675	1,364,235
売掛金	1,731,538	1,699,270
貯蔵品	109,221	—
前払費用	34,242	33,004
繰延税金資産	75,426	99,048
その他	28,621	61,697
貸倒引当金	△143,816	△219,375
流動資産合計	3,311,908	3,037,881
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,558	8,416
減価償却累計額	△3,252	△3,886
建物(純額)	3,306	4,529
工具、器具及び備品	44,893	52,749
減価償却累計額	△38,484	△43,438
工具、器具及び備品(純額)	6,408	9,311
有形固定資産合計	9,714	13,840
無形固定資産		
その他	50,801	34,962
無形固定資産合計	50,801	34,962
投資その他の資産		
その他	82,155	55,407
投資その他の資産合計	82,155	55,407
固定資産合計	142,671	104,210
資産合計	3,454,580	3,142,092

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	107,664	95,428
短期借入金	100,000	130,000
未払金	108,296	90,721
未払法人税等	132,424	94,756
前受金	39,879	33,417
預り金	19,886	123,780
業績連動賞与引当金	75,935	88,774
その他	38,626	26,005
流動負債合計	622,714	682,884
負債合計	622,714	682,884
純資産の部		
株主資本		
資本金	530,555	604,070
資本剰余金	812,190	885,705
利益剰余金	1,488,130	968,572
自己株式	—	△28
株主資本合計	2,830,876	2,458,319
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	—	△99
その他の包括利益累計額	—	△99
新株予約権	989	989
純資産合計	2,831,865	2,459,208
負債純資産合計	3,454,580	3,142,092

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
売上高	3,160,516	3,367,076
売上原価	1,092,240	1,204,496
売上総利益	2,068,275	2,162,580
販売費及び一般管理費	1,766,480	2,396,311
営業利益又は営業損失(△)	301,794	△233,731
営業外収益		
転籍関連収入	633	—
受取利息	17	22
雑収入	—	236
営業外収益合計	651	258
営業外費用		
支払利息	135	559
為替差損	—	139
営業外費用合計	135	699
経常利益又は経常損失(△)	302,311	△234,171
特別利益		
固定資産売却益	4	—
特別利益合計	4	—
特別損失		
固定資産除却損	713	4
事業整理損	—	127,171
特別損失合計	713	127,176
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	301,601	△361,347
法人税、住民税及び事業税	204,058	183,556
法人税等調整額	△34,337	△25,345
法人税等合計	169,721	158,211
当期純利益又は当期純損失(△)	131,879	△519,558
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△56,502	—
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	188,382	△519,558

(連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
当期純利益又は当期純損失(△)	131,879	△519,558
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	△99
その他の包括利益合計	—	△99
包括利益	131,879	△519,658
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	188,382	△519,658
非支配株主に係る包括利益	△56,502	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計			
当期首残高	509,210	1,253,840	1,299,748	3,062,798	989	42,804	3,106,592
当期変動額							
新株の発行	21,345	21,345		42,690			42,690
親会社株主に帰属する当期純利益			188,382	188,382			188,382
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△462,994		△462,994			△462,994
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—	△42,804	△42,804
当期変動額合計	21,345	△441,649	188,382	△231,921	—	△42,804	△274,726
当期末残高	530,555	812,190	1,488,130	2,830,876	989	—	2,831,865

当連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	530,555	812,190	1,488,130	—	2,830,876
当期変動額					
新株の発行	73,515	73,515			147,030
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△519,558		△519,558
自己株式の取得				△28	△28
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	73,515	73,515	△519,558	△28	△372,556
当期末残高	604,070	885,705	968,572	△28	2,458,319

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	—	—	989	2,831,865
当期変動額				
新株の発行				147,030
親会社株主に帰属する当期純損失(△)				△519,558
自己株式の取得				△28
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△99	△99	—	△99
当期変動額合計	△99	△99	—	△372,656
当期末残高	△99	△99	989	2,459,208

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	301,601	△361,347
減価償却費及びその他の償却費	35,129	30,387
業績連動賞与引当金の増減額(△は減少)	75,935	12,839
貸倒引当金の増減額(△は減少)	38,111	81,373
固定資産除却損	713	4
事業整理損	—	127,171
売上債権の増減額(△は増加)	△186,248	32,300
たな卸資産の増減額(△は増加)	△86,397	16,183
前払費用の増減額(△は増加)	3,154	△22,251
仕入債務の増減額(△は減少)	25,576	△12,262
前受金の増減額(△は減少)	△1,561	△6,462
未払金の増減額(△は減少)	17,521	△19,042
預り金の増減額(△は減少)	14,675	103,894
未払又は未収消費税等の増減額	△24,749	△40,470
その他	7,330	△15,520
小計	220,792	△73,202
利息の受取額	17	22
利息の支払額	△135	△559
法人税等の支払額	△196,152	△216,513
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,522	△290,252
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社株式の取得による支出	—	△10,000
有形固定資産の取得による支出	△1,816	△11,488
無形固定資産の取得による支出	△6,335	△16,526
敷金及び保証金の差入による支出	△6,189	△742
敷金及び保証金の回収による収入	—	8,457
その他	△30,914	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△45,254	△30,299
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	30,000
株式の発行による収入	42,690	147,030
自己株式の取得による支出	—	△28
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△449,296	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△306,606	177,001
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	196
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△327,338	△143,354
現金及び現金同等物の期首残高	1,804,013	1,476,675
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	30,914
現金及び現金同等物の期末残高	1,476,675	1,364,235

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(当連結会計年度における重要な子会社の異動)

当連結会計年度において、博設技股份有限公司を設立したため、連結子会社に含めております。

(会計方針の変更)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い等の適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号平成30年(2018年)1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等を2018年4月1日から適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については、「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号平成17年(2005年)12月27日)等に準拠した会計処理を行うことといたしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「企業プロモーション支援を目的とした電子メディア事業」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
1株当たり純資産額	198.10円	169.27円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額(△)	13.21円	△35.94円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	12.65円	—

(注) 1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(千円)	188,382	△519,558
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失(千円)	188,382	△519,558
普通株式の期中平均株式数(株)	14,264,500	14,454,448
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	630,373	—
(うち新株予約権(株))	(630,373)	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	(提出会社) 新株予約権1種類(普通株式50,000株) (連結子会社) (株)ブランジスタゲーム 新株予約権2種類(普通株式2,531株) 転換社債型新株予約権付社債1種類(普通株式707株)	(提出会社) 新株予約権6種類(普通株式715,000株) (連結子会社) (株)ブランジスタゲーム 新株予約権2種類(普通株式2,531株) 転換社債型新株予約権付社債3種類(普通株式2,711株)

(注) 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。